

３)「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく阿賀川流域の減災に係る各機関の取組

(各機関の令和５年度の取組内容報告)

# 阿賀川流域の減災に係る各機関の取組について(福島県の取組)

結果報告: 具体的取組事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入。

## ■2. ソフト対策 ②.1

### 連携活動

- 「田んぼダム」普及・促進に係る説明会を2回開催
- 出水期前に市町村や水防団等と重要水防箇所や水防資機材の合同巡視を実施



## ■2. ソフト対策 ①.2

### 水災害、流域治水の広報

- 大雨への備えや避難の重要性
- 防災意識の向上とマイ避難の普及についてラジオ(県政広報番組)を目的とした総合防災イベント「そ組」に出演し呼びかけ(計9回) なるゑ・ふくしま2023」を実施
- 線状降水帯に関する注意喚起
- 気象台と連携し県内市町村職員等について、30秒スポットCMや対象とした気象防災ワークショップ新聞にて周知広報を実施した。
- 各地方振興局にて実施。内、阿賀川流域においては、会津地方振興局及び南会津地方振興局にて各1回実施。
- 県内の流域治水に係る取組について新聞掲載にて周知広報を実施



## ■2. ソフト対策 ①.1

### 教育活動・出前講座

- 小中学校等を対象に「そなるゑふくしまノート」等を活用した防災出前講座を実施(21回:計639人)
- 喜多方市及び南会津町において、防災に関する家族セミナーを開催(2回:計25人)
- 小中学校を対象に水災害及び土砂災害に関する出前講座を開催(11回:計486人)
- 災害リスクエリアの住民等を対象にマイ避難推進講習会を開催(15回:計305人)



## ■1. ハード対策.1

## ■2. ソフト対策 ①.1

### リスク情報等の提供

- 気象情報や避難情報等をプッシュ通知で知らせる防災アプリの開発
- 様々な防災情報を地図上に一元表示させる防災ポータルの開発
- 福島県河川流域総合システムにて河川水位、雨量情報等を発信
- 大塩川など7河川において危機管理型水位計を9基設置
- 大塩川など8河川において簡易型河川監視カメラを10基設置
- 野尻川などにおいて洪水浸水想定区域図を作成・公表
- 4箇所を土砂災害警戒区域等に指定



## ■2. ソフト対策 ②.1

### 訓練活動

- 阿賀川総合水防演習に参加
- R5福島県土木部災害対応模範訓練に参加(県・市町村)



## ■2. ソフト対策 ①.1

### 計画策定

- 防災士等を派遣の上、地区防災計画策定のためのワークショップ等を実施(17回)
- 水害タイムラインの策定主体となる市町村と連携しながら各種技術的支援を実施



## ①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

## ②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

## ③行動を誘発する

流域治水に取り組み、主体が増える

水災害対策や、流域治水に実際に取り組みが行われ、個人の行動も意識的に主体的に行われる。

阿賀野川(阿賀川)水系流域治水協議会資料より抜粋

R6. 3. 21第6回

# 阿賀川流域の減災に係る各機関の取組について(会津若松市の取組)

結果報告： 具体的取り組み事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入。

## 流域にも視野を広げる (自分のためにも、みんなのためにも)

### ■2. ソフト対策 ②. 1

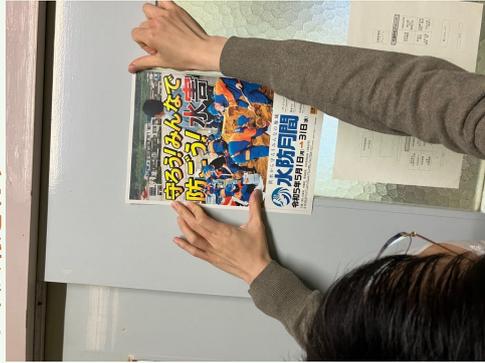
#### 連携活動

- 阿賀川管内の各河川管理施設の機能を把握するため、河川管理者と合同勉強会の実施
- 県河川合同パトロールの実施
- 大川ダムの緊急放流時のホットラインについて阿賀川河川事務所担当者との確認をした

### ■2. ソフト対策 ①. 2

#### 水災害、流域治水の広報

- 出水期に合わせ広報誌、ポスター掲示により広報を行う



### ■2. ソフト対策 ①. 2

#### 教育活動・出前講座

- 阿賀川総合水防演習に向け、防火学習を実施(@荒館小学校)
- 市防災対策普及員による、市民向け水災害等に関する出前講座の実施
- 出前講座により、防災行動計画(タイムライン)について周知を図った



### ■2. ソフト対策 ②. 1

#### 訓練活動

- 阿賀川総合水防演習を開催
- 阿賀川総合水防演習において、関係機関が連携した排水実動訓練の実施
- 大川ダム放流量に影響される芦ノ牧本村地区住民の水防訓練(情報伝達、避難行動)の開催
- 市総合防災訓練の開催に合わせ、行仁地区の避難訓練及び防災講習を行った



### ■2. ソフト対策 ①. 1

#### 計画策定

- 要配慮者施設における避難計画策定の推進を行った
- 病院や福祉施設等の要配慮者施設に係る基礎データを収集
- 会津若松市地域防災計画に掲載されている要配慮者施設の避難確保計画の作成率を100%とした。
- 新庁舎の建て替え工事(R4~7)にあたり、耐水化、非常用電源等の必要な対策について確認を行った。

### ■2. ソフト対策 ①. 2

### ■2. ソフト対策 ②. 1

#### 水防活動の支援

- 出前講座において、自主防災組織化の必要性を説明した。
- 出前講座等による自主防災組織化の支援を行った
- 自主防災組織の設立意向のある町内会等への直接支援を行った。
- 出前講座による自主防災組織設立に向けた機運醸成を図った。
- FMあいつにおいて、防災特番収録への参加し団員募集を行った。



### ■1. ハード対策. 1

#### 水災害対策の支援

- 水災害時に使用する、消防団員用ヘルメットの配備
- 出水期に備えた土のう作成及び配備

## ①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

## ②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

## ③行動を誘発する

流域治水に実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

# 阿賀川流域の減災に係る各機関の取組について(福島県、会津若松市以外の協議会構成員の取組)

結果報告： 具体的取組事例について取り上げつつも、参加団体数や参加者数等の定量的数字を把握し記入。

(凡例：      水防連絡会及び減災対策協議会の構成機関以外の取組内容)

## ■2. ソフト対策 ②.1

### 連携活動

- 気象情報の改善の取組み(福島気象台)
  - 洪水時の公衆災害防止を目的として、出水時の通知、通報の方法・連絡体制などの確認と意見交換を実施(東北電力: 国、市町村、警察、消防、防災支援の取組み(福島気象台) 1回)(電源開発: 町、警察、消防)
- 河川管理者等と合同で水防資機材の確認(昭和村)
  - 操作規程で定められた通知内容以外について、県・市町村・警察と協議を行い、運用による通知を実施(東北電力: 県・市町村、警察、消防)
- 河川管理者等と重要水防箇所等の合同点検巡視の実施(会津美里町)
  - 電源開発: 県・町、警察、消防



## ■2. ソフト対策 ②.1

### 訓練活動

- 阿賀川総合水防演習に参加(会津若松消防本部、喜多方消防本部、会津坂下町、会津美里町、西会津町、下郷町、湯川村)
  - 町防災訓練時、住民参加型の避難訓練を実施した。



## ■2. ソフト対策 ①.2

### 水防活動の支援

- 自主防災組織による避難訓練(喜多方市)
- 自主防災組織新規設立を促すために、出前講座により説明を行った。



## ■2. ソフト対策 ①.1

### 教育活動・出前講座

- 各種研修での自然災害教育の実施(喜多方消防本部)
- 避難方法等について、出前講座による周知(会津美里町)
- 小中学校等に水災害及び土砂災害などに関する出前講座の実施



## ■2. ソフト対策 ①.1

### リスク情報等の提供

- 登録制メールについて、出前講座で登録の呼びかけを行った。(会津美里町)
- 洪水浸水想定区域、土砂災害計画区域等の検討・公表
- ホームページ等による河川の水位情報や河川監視カメラ等の情報提供
- 会社ホームページにダム毎正時情報等の掲載による情報提供(東北電力)
- ダム毎正時情報等を国土交通省へ伝送し、「川の防災情報」への掲載による情報提供(東北電力・電源開発)

## ■2. ソフト対策 ①.2

### 水災害、流域治水の広報

- 出水期に合わせて広報誌6月号により広報・周知(会津美里町)
- 広報誌でダム放流に関する啓発活動を実施(東北電力: 市町村、1回)(電源開発: 町(只見町)での全戸配布)
- ダム放流に関するポスター配布により啓発活動を実施(東北電力: 近隣小学校、1回)



## ■2. ソフト対策 ①.1

### 計画策定

- 流域タイムライン策定への支援
- 要配慮者施設等の避難確保計画の作成検討

## ■1. ハード対策.1

### 水災害対策の支援

- 河川管理者と町・水防団(消防団)で資機材を確認した。
- 土壌ステーションの保管量、管理方法、速やかな配布方法等の検討

## ①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

## ②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

## ③行動を誘発する

流域治水に取り組む主体が増える水災害対策や、流域治水に因り実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。